

三重大学人文学部文化科学研究紀要 執筆要領

- ① 原稿は完全成稿で投稿すること。
- ② 原稿は、研究分野の特殊性に鑑みて相当の理由のある場合を除き、執筆要領に従ったものであること。
- ③ 体裁の統一をとるため、原稿には紀要編集委員会が手を入れることがある。
- ④ 書式上の注意

1. 原稿用紙等

- 手書きによる原稿の場合は、400字ないし200字詰原稿用紙（横書および縦書）を使用すること。
- ワードプロセッサによる原稿の場合は、A4判用紙を使用すること。
- 原稿には通し番号をふること。

2. 字体、記号等

- 特殊な活字（太字体、斜字体など）については、本文中に著者が指定する。その際赤鉛筆を用いて、斜字体（イタリック）は下線 を、太字体（ゴシック）は波下線~~~~~を使用すること。斜字体、太字体に下線等を付す時は、その旨、明示すること。
- その他、傍線、傍点などを付ける場合は、適当な方法で原稿に、その旨指定すること。外国語は活字体で明瞭に記すこと。

3. 図・表

- 図・表などは別紙に作成し、おおまかな掲載場所を原稿中に指定すること。
- 図・表の記号は、1から整理し、それぞれ図1、表1のように記すこと。

4. 註、文献表

- 註は通し番号で、本文中に、横書きは(1)、(2)…、縦書きは①、②…のように付し、註そのものは原稿の末尾にまとめること。
- 文献表をつける場合は、和文のものは、著者の五十音順に並べ、欧文のものは著者名のアルファベット順に並べる。和・欧ともに含む場合は、和文のものを先とし、欧文のものを後にする。（中国語等はその慣例による）

5. 引用文献、参考文献等の表記

イ. 和文の文献

- 原則として以下のようにする。

書名、雑誌名は『 』でくくり、論文名は「 」でくくる。即ち、

〈単行本〉著者（訳者）、『書名』、出版社、出版年、引用頁

〈編者〉執筆者「論文名」、（編者『書名』、出版社、出版年）、引用頁

〈雑誌等論文〉執筆者「論文名」、『雑誌名』巻号、刊行年、引用頁

の如く表記すること。参考文献表では概ね、ここから引用頁が落ちたものとなる。

ロ. 欧文の文献

- 書名、雑誌名はイタリックとする。

論文名は“ ”で包み、活字体で記す。

- 必要事項の記述は和文の場合に準ずるが、細目（in：の使用等）は、当該外国語、研究分野の慣例の様式によるものとする。

以下、英文の場合の一例を挙げる。

〈註の場合〉

Northrop Frye. *The Stubbom Structure: Essays on Criticism and Society* (London: Methuen, 1970). p. 165

〈文献表（書目）の場合〉

Frye, Northrop, *The Stubbom Structure: Essays on Criticism and Society*. London: Methuen, 1970.

〈雑誌論文等の場合〉

Sue K. Tester, "Descartes", *Neophilologus*, IV 2 (1970), 184-192.

G. C. Span, "Marx after Derrida" in *Philosophical Approaches*, ed. E. Chain (F. U. Press, 1978). p. 54.

6. その他

- 共同執筆者に本学部教官以外の者を含む場合は、氏名のあとに所属機関を明示するとともに、原則として、末尾に各自分担の範囲を明示すること。
- 文部科学省科学研究費による研究成果については、年度・種類・題目・代表者・課題番号を原稿末尾に明示すること。

7. 欧文等外国語の原稿

- タイプ使用の際は、タイプ用紙にダブルスペースで印字のこと。
- 図・表については和文の場合に準ずる。
- 註は、通し番号で、本文中に数字で示し、原稿末尾に別葉にまとめる。
- その他、書式の細部については、当該外国語で慣用の様式に準拠すること。
例：英文、MLA様式等。
- ワープロ原稿については、タイプ原稿に準ずる。
- 共同執筆者、文部科学省科学研究費等については、和文原稿に準ずる。